

横路孝弘先生会見のためのメモ（2021年6月28日、国会第2議員会館）

メモ	佐藤政権最後の1年間の主な出来事
取材の狙い	沖縄返還から50年を経たことをきっかけに、沖縄返還交渉を振り返り、佐藤内閣最後の1年間（1971年5月～72年6月）の国会と世情の動きを検証し、西山記者逮捕、佐藤退陣までの真実を残したいとの動機から執筆を開始。 西山逮捕の72年4月、馬場は読売新聞社会部の警視庁記者クラブにおり、西山逮捕事件を担当した。取材先の警視庁刑事から、この事件は立件することは非常に困難との感触を得ていたが、総理大臣の意を忖度した国家公安委員長が警察庁長官に強制捜査を示唆して逮捕に発展。これは総理大臣→国家公安委員長からの「指揮権発動」と受け止めていた。 50年を経て、当時、現場で取材した記者としてこの事実を残したいとの一念から執筆を開始した。 西山記者裁判は一審無罪、控訴審、最高裁は有罪。 しかし、問題となった機密電信文記載の密約は、アメリカの公文書開示から事実であったことが判明。当時の政府は横路代議士らの質問にもことごとく虚言で押し通した事実が判明した。 （資料 新聞報道3通）
佐藤政権の評価 沖縄返還交渉を主にして （馬場錬成私見）	1. 核抜き本土並み交渉の骨子は、若泉敬氏の密使で進めた。アメリカはホワイトハウス主導の返還タスクフォースで対応。 2. 若泉氏は首相の個人密使であるため辞令も出ていないし、経費についても曖昧になったまま。 3. 返還交渉で対米支払いは、大蔵大臣福田・柏木財務官・ジュリック財務長官特別補佐官の秘密交渉の密約で決着。対米支払いの400万ドルも密約になった。 繊維交渉でも密約あり。外務大臣・通産大臣にも明らかにしない密約があったことが後年、アメリカ公開資料などで明らかに。 4. 国会審議では、対米密約についての追及には徹底的にしらを切り通し、議案をすべて自民党多数の原理で逃げ切った。 予算委員会での横路先生への答弁は、ウソの羅列であり、福田外務大臣はその後、総理大臣になった。 5. 国会軽視、国民主権の軽視、多数決なら政治倫理も軽視という考えの前例を残し、安倍政権の横暴につながった。 6. 沖縄返還は、佐藤首相の個人的手柄のために強引に進めたものであり、いまに残す「対米思いやり予算」などへ負の遺産につながっている。

横路議員の国会追及	1. 西山記者の解説（71年6月18日付け毎日新聞）対米請求処理に疑惑。交渉の内幕を読み解く。 （資料 西山解説2通） 2. 解説文を読んだと思われる横路先生が追及を開始か。 野党担当記者を通して接触を図ってきたと西山記者は著書で記述 3. 衆院連合審査で横路委員が追及S46年12月7日 （資料 連合審査議事録コピー） 4. 衆院沖特委で追及S46年12月13日 （資料 沖特委議事録コピー） 5. 衆院予算委で追及S46年3月27日 （資料 予算委議事録コピー2通） 6. 極意電信文の内容を追求 （資料 外務省電信文、新聞報道）
西山記者の発言の確認	1. 横路議員とは一度も面談をしてことがないということは真実か。 2. 中谷・毎日新聞編集局長との面談は何を話し合ったのか。
沖縄返還交渉の真実	1. 佐藤総理個人の密使による返還交渉。 2. 佐藤・福田蔵相・柏木財務官による対米支払いの密約 3. 福田外相・吉野文六・北米局長ら外務省の密約と国会狂言 4. アメリカ外交文書公開などで真実が暴露
メディアの敗北	1. 毎日新聞を始め、女性秘書逮捕から論調が軟弱に 2. 起訴状の「情を通じ」から、週刊誌などが事実の追求ではなく女性スキャンダルと取材方法の糾弾になる。
日中交渉でも密使	1971年7月、電撃的にニクソン訪中発表にショックを受けた佐藤総理は、密使を派遣。4回にわたる周恩来への佐藤新書を持参してたびたび香港経由で訪中。周恩来から佐藤総理宛ての返書もある。 周恩来と佐藤の親書の往復で、日中正常化への道筋がほぼ決まっていた。しかし、7月7日の田中内閣発足で、すべて立ち消えとなったが、田中総理は、佐藤の日中国交回復路線に乗っただけという評価も出ている。 「佐藤栄作 最後の密使」（宮川徹志、吉田書店、2020年） NHKで特集を放映 （資料7 佐藤栄作日記 NHK・BS特別番組画面）

沖縄返還交渉の負の遺産	国会で絶対多数を握っていれば、何をやってもいい。政治倫理の破壊。 安倍内閣の、モリカケ問題、サクラを観る会問題など国会と国民軽視で逃げ切る。佐藤政権の前例に倣った？
社会党の衰退と惜別 (馬場錬成の体験も)	1. 沖縄返還交渉時代から国対政治が台頭 予算成立後の成田委員長の言葉 (資料8 佐藤栄作日記) 2. 横路先生の発言 (資料9 横路孝弘先生「沖縄密約事件が提起したもの」 月刊社会党1972年6月号掲載) 3. 伊達家電反対闘争の全動労競争力の対応 (沖縄反対闘争もすべて 公安警察と打ち合わせていた？ 国労記者クラブ、全動労協の取材から このような事実が分かってきた。
馬場と社会党との縁	消費者問題などの国会質問でたびたび神近市子先生を取材。加藤恵子秘書を通じて亡くなるまで縁が繋がった。